

矢祭子ども司書となった君たちへ

新たに子ども司書の資格を得た皆さん、  
おめでとう！

昨年からの子ども司書研修のカリキュラムは、図書館の本の分類や貸し出しの仕事、それも矢祭町のもったいない図書館だけでなく、他の大きな図書館を訪問して、しっかりと学ぶようになっていきましたね。しかも、野外に出て、俳句の季語のことを学ぶなど、幅広く授業科目と違ういろいろな学びをしましたね。

自分の好きな本を、一人で読むだけでなく、様々な専門分野の本をたくさんそろえている図書館についての学びは、あなたがこれから中学、高校、大学又は専門学校へと進学していく中で、とても大きな意味を持つことになると思います。図書館についてよく理解することは、君たちがこれからいろいろと学ぶ時にも、あるいは将来大人になって仕事をするようになってから、自分が今、人間の知の世界のどの辺りの分野の仕事をしているのかを自覚する上で、とても役に立つはずです。それは、日本地図や世界地図の中のどこに自分がいるのかを知ることと同じような意味を持ちます。

本は人類の歴史とともに古くから作られてきました。それは、人間がいかに本を通じて知識や知恵を必要としてきたかを示すものです。紀元前のエジプトの本は、その代表的なものです。童話の世界でも、イソップの物語と同じ物語は紀元前から世界各地で語られ、書かれてきたのです。

皆さん、この一年間、子ども司書の学びをしてきたことを忘れてないで、これからの学びにいかしてください。皆さんがそうすることで知性豊かに成長することを期待します。

平成二十九年二月十日

作家 柳田 邦男